

第3回佐賀市総合・地域分科会 議事録

- ◆ 日時
令和6年7月26日（金）14:00～16:00
- ◆ 会場
ホテルマリターレ創世 佐賀 3階 グラツィアホール
- ◆ 出席委員（敬称略、五十音順） ※◎は分科会長
鳥井智子、野中明、林正博、宮城亮、宮崎陽治、◎山下宗利、山田健一郎、渡島隆章
- ◆ 欠席委員（敬称略、五十音順）
小城原直、野田直子、福成有美、
- ◆ 事務局
筒井地域振興部長、松枝総務法制課長、渡辺広報課長、南雲国際課長、白濱企画政策課長、藤本行政マネジメント課長、木原DX推進課長、橋本男女共同参画課長、岡協働推進課長、大坪公民館支援課長、江頭スポーツ振興課長、小林歴史・文化課長 外
- ◆ 傍聴者
1名
- ◆ 議事要旨
 - 1 開会
 <<説明>>
 ○パブリックコメント・市民説明会の結果に関する説明（事務局）参考資料
 - 2 議事
 ○分科会長
 本分科会においては、基本構想、文化・スポーツ、コミュニティ、行政経営の4分野について審議する。第2回分科会では、意見交換を主とし、総合計画素案のブラッシュアップを行った。今回の第3回分科会では、意見のとりまとめを行いたい。
 - (1) 基本構想について
 ○「基本構想」の計画修正案に関する説明（事務局）資料1

○分科会長

ただいま、「基本構想」の計画修正案について説明いただいた。ご意見、ご質問があれば伺いたい。

○委員

将来像は一番の基本である。色々な意見に対しよくまとまっているとは思いますが、現実として2040年時点で佐賀がどのようなになっているかについては、言葉ばかりでその像が見えない。佐賀市がどのような姿になっているかを明確にする必要があり、それによって市民や外の人に関心を持ち、より良い市になると考える。No01, 02, 07, 08, 09 の意見などは、当たり前の、こうならなければならないことであると考え。それらを含めて、分野ごとに“2040年に佐賀市がこうなることが目標である”と見える言葉が欲しいと思った。

また、私が佐賀市のまちづくりに関与する中で、市民の協力はほとんどなかった。私達が見える姿等を述べても、そうなったら自分のところはどうなるのかという、小さな単位の考え方による反対が多かった。だから市が、彼らを引きつけて、意見を取りあげ具現化する方向に、リードしてまとめていってほしいと考える。

この二十数年間で様々な活動をしてきたが、何ひとつ変わっていない。私達が子どもの頃よく行きたいと思っていたまちの中心部には、ほとんど人通りがない。一方、新市街のショッピングセンターなどには人が集まり、にぎわっている。旧市街と新市街で明暗が分かれており、旧市街をどうするかが重要である。

佐賀は鍋島文化であり、歴史や文化、教育や弘道館などがある。佐賀の誇りである七賢人等は、鍋島時代の教育などを中心に受けた実績があるため、その観点も入れて教育を論じてほしい。

欧米の先進都市にはそれぞれ歴史があって、古い部分と新しい部分があるが、そこを継承・再現しながら、自分たちの宝としている。観光客にとって、そのまちがどのようなところなのかを知るために訪れるのは、そういった旧市街地区であり、それを大切にすちゃんとしたまちづくりができています。

一方、長崎街道には絵や看板があるだけなので、誰も魅力を感じない。佐賀はこれまで、歴史ある文化財を壊してしまっていたが、佐賀城を中心とする武士のエリアや商人街などをまちづくりできちんと示していけば、これから産業の中心になる観光業にとっても重要な要素となると思う。そういったところを踏まえたいので、佐賀市の像を考えてほしい。

○分科会長

具体的な政策・事業に取り組む総合戦略で対応させていただきたい。

○委員

重要なのはどのように計画を実行に反映するかである。7月3日の佐賀新聞の記事で、第2次総合計画の達成率は27%という記事が出ていて驚いた。達成できなかったのは、実行計画が伴っていないからだと思う。私に関わった範囲でも、いろいろなまちづくりの計画を策定したが、それが全然実行されていない。計画が実現していたら、もっと佐賀はにぎわっていたはずである。達成率27%では落第であり、そういった現実を踏まえて、市議会議員・行政当局の方々には、実行を重視したうえで取り組んでいただきたい。

○事務局

今回の将来像は、今後のまちづくりの在り方として、人を中心とし、一人一人の幸せを重視していきたい、多くの人が佐賀の良いところに気づき磨いていくことで、みんなでまちを良くしていきたい、という思いを込めて案を出させていただいた。おっしゃるように、佐賀の歴史や地域性などの様々な点を磨いて、市民の誇りとしていきたい。

○事務局

第2次総合計画の新聞記事については、令和6年度までの計画の進捗を、令和4年度までの実績値で見られており、その達成率である。また、実際には計画期間中に目標値を上方修正したものもあり、実際の数値はもう少し上がっていると考えられる。加えて、観光客数などは、期間中にコロナの影響があり、なかなか進まなかったという事情もある。

○分科会長

最近ではPDCAなどの自己評価の体制があるため、佐賀市でも確立されることを期待したい。

○委員

計画について、ある程度達成した部分もあるので、いいところは伸ばしていくことも大切だと思った。県の総合戦略の検証にも関わっているが、やはりコロナの影響などがあり、未達成が多くなっている。また、市長の変更もあったので、現状を整理して、しっかりやっていければと思った。

パブリックコメントについては、なかなか少ないと感じているが、昨年度との比較としてはどうなのか。意見収集は行政経営でも大事にしていたところなので、改善について、スーパーアプリの活用など工夫してもらいたい。市民の方の声を

いかに拾うかが重要であり、模索していかなければいけないと感じた。市民説明会参加者のエリアや地域性、文化性やコンパクトなまちでどう進めていくのがいかなどを考えることが大事だと思う。

また、素案13ページのバックキャストの思考も大事だと思う。人口が減っていくことは事実なので、その中で市政や地域とのコミュニケーションをとっていくことが大事だと思っており、素案19ページの発想の転換というのはいすごいと思った。一方で、発想の転換：パラダイムシフトが必要ではあるが、高齢者であっても元気であれば子育て世代の人を支える、というのがちゃんと伝わっているのか、反対はないのかについては気になった。

前回の分科会を出した中心市街地活性化に関する意見に対して、担当課がすぐに反応して意見交換をしてくれる姿勢はありがたかった。

○事務局

パブリックコメントについて、過去の総合計画の例などと比較し、今回はご意見をいただいた方だと感じている。市民説明会では356名の方にご参加いただいた。従前の説明会では自治会などに回覧板等を用いて周知し、長時間拘束する形で開催していたため、ハードルが高く、なかなか参加が難しいところがあった。そこで今回は、パネルを用いた対話型の説明会として開催し、パネルを見て3分程度で意見を書かれる方、この機会に丁寧に議論される方など様々だった。このようなオープンハウス型の市民説明会は佐賀市では恐らく初めてだったが、今回のようなやり方もあるし、もっと改善できる点もあると感じている。

パラダイムシフトについては、これまでの価値観を変えていかないと、人もいないお金もないというような新たな時代になった時に、これまでの制度をそのまま続けていても難しい面があるので、変えるべきところは変える必要があると思っている。行政はどうしても前例踏襲になりがちなので、是非行政から発想を変えていきたい。

○委員

参考資料に記載されている、いただいた主な意見02健康・福祉の「老人と子どもと一緒に触れ合える催しを増やしてほしい」という意見について、どういった方が言ったか分からないが、すごく良い話だと思う。佐賀はまだ3世代・4世代で住んでいる人も多いと思うが、価値観が多様化しているこの時代に、これから活躍する若い世代に対して価値観を押しつけることは難しい。その中でも、家庭教育は非常に大切であり、さきほどの鍋島文化や、戦争の話など、地域のおじいちゃん・おばあちゃんから歴史の話を聞くような場を提供するのもよいと思った。私も祖母から戦争の怖さが伝わるような話を聞いており、意識改革として、実際

の体験から学ぶことは非常に重要と考える。

○事務局

この意見は2名からいただき、年齢層としては15～64歳の方だった。

○パブリックコメントによる計画修正案説明「基本構想」(事務局) 資料2

<意見なし>

(2) 文化・スポーツについて

《説明》

○「文化・スポーツ」の計画修正案に関する説明(事務局) 資料1

《意見交換等》

○分科会長

ただいま、「文化・スポーツ」の計画修正案について説明いただいた。ご意見、ご質問があれば伺いたい。

○委員

意見整理表 No38 の意見を補足したい。どんどんの森の周回道路は、現在渋滞の迂回道路として使われており、朝・夕のラッシュ時にはスピードを出した車が通っている。明かりも少なく、ガードレールもないため、危険である。あそこは本来、市民や子どもが集まったり、ジョギングしたりウォーキングしたりする場所なので、本当にこの道路が必要なのかという観点も含めて検討し、道路として維持するのであれば、安全面に気を付けていただきたい。川沿いの良い場所であるため、観光に役立てたり、市民のための場所にするなどしてほしい。あの施設は、観光文化施設としての機能がそろっており、観光資源となりうると思う。

○パブリックコメントによる計画修正案説明「文化・スポーツ」(事務局) 資料2

<意見なし>

(3) コミュニティについて

《説明》

「コミュニティ」の計画修正案に関する説明（事務局）資料1

<意見なし>

○パブリックコメントによる計画修正案説明「コミュニティ」（事務局）資料2

<意見なし>

(4) 行政経営について

《説明》

○「行政経営」の計画修正案に関する説明（事務局）資料1

<意見なし>

(5) その他の質問・意見について

○委員

意見整理表 No48 修正案の「市民とともに」について、コミュニティでも使われていて、指針もあるので、「協働」という言葉でも良いと思った。

コミュニティや多文化共生について、最近市に転入する外国人の方の伸び率が増加している。選んで佐賀市に来ていただいております、選ばれる佐賀市になれば、誰にとっても過ごしやすいまちになると思う。また最近、外国人の方も災害対応時の担い手としての役割を期待されているので、そういった要素も入るといいなと思った。

○委員

行政経営について、PFI 制度などの言葉があったが、今は自治体が民間資金を活用することは多く行われている。民間資金活用などと記載するのは抵抗があるか。スポーツに関する委員会で、施設の老朽化に対して、税金だけに頼るのは限界があるという話が出た。PFI に限らず、小さなところから民間資金を活用できるようになれば、民間企業や市民も参加しやすくなるのではないかと思う。

○委員

計画のボリュームが大きく、これを実践するのが大変だと思う。今は行政主導で行われており、職員の負担も大きいと思われる。目標達成度が低いという話があったが、これは体制が整っていないことが1番の原因だと思う。達成のためには、市民や企業も協力する必要がある、市民・企業・行政の意思疎通をスムーズにしなければならない。今回の計画にも、ITやAIなどの活用があったが、現在情報提供手段としてある市報がきちんと読まれているかは分からず、HPも階層が多く見やすいとは言えない。ITの活用としては、Xなどを用いて、例えばスポーツや文化に集中して情報発信を進めるなど、有効活用するのが良いのではないかと。

また、事業をしたい人が施設を探しても、できる場所が少ない。中心部は人が少ない・車が停めにくいとして、車社会の佐賀市では郊外の方が好まれる。そのため、事業者の人が起業しやすい環境づくりを中心市街地で進めなければならない。今、中心部からの企業の撤退が増えている。佐賀市の方策は市民のため、こどもの未来のためのまちづくりに集中しているが、企業に対しても上手くサポート・協力ができているのかとも感じる。

スポーツ施策の「自分らしくスポーツと関われること」「する以外のスポーツへの関わり方」などのためには、スポーツビジネスとの協力も大事である。ビジネスとして大きく取り組むことが結果的に、市民と佐賀市のつながりやスポーツ活動の底上げにもつながると思う。その達成のためには、専門的な人の存在が必要だが、それは福岡などと比べると劣るところがあるため、佐賀市の企業が協力してやっていく体制を作っていくべきではないか。福岡では七社会という公共性の高い企業同士の協力体制があり、それが有効に作用して、福岡博覧会などを取り組んできた。佐賀市でも企業が連携して取り組む体制ができれば、計画の達成や行政の負担軽減になるのではないかと。例えば、この間佐賀銀行が地方交通に関するシンポジウムを開いていたが、そういった取り組みを支援していくべきと考える。それらによって、目標値の達成や中心市街地の活性化などにつながると思う。

○委員

佐賀市の最大の特徴である自然環境に対して、オスプレイやヘリコプターなどが飛び回っているのはどうなのか。佐賀市はバルーンイベントや有明海のラムサール条約などがあるので、その影響について2040年に向けて考えるべきではないかと考える。

3 閉会